

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	リシュモンジャパン株式会社およびカルティエの企業研究
調査日	2024年10月28日(月)
調査先	リシュモンジャパン本社 (東京都千代田区麹町1丁目4-2 半蔵門ファーストビル) カルティエ銀座ブティック(東京都中央区銀座2丁目6-1 2)
担当 CVS	加藤真帆 熊崎望美 松橋りさ 松橋由里
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生12人、2年生8人
調査趣旨・目的	リシュモンジャパン株式会社およびカルティエの、伝統を守りながらも時代に合わせて変化し続ける企業姿勢について学ぶ。
調査結果	<p>私たちは今回世界中で愛されているジュエリーブランド、カルティエに訪問させていただきました。</p> <p>まず初めにカルティエの親会社であるリシュモンについてのお話を伺うことができた。リシュモンではインターナルモビリティ制度(社内異動制度)というものがあり、社員の方々がメゾンや業務内容、働く国を変えることが可能だという。リシュモンは社員の方々にとってとても働きやすい職場だと感じた。</p> <p>私が話を聞いて印象的だったのはカルティエの企業理念だ。企業訪問をする以前、カルティエは歴史あるブランドで古風であるというイメージを持っていた。もちろん昔から受け継がれてきた伝統を守ることも大事にしているが同じくらい時代とともに変化し続けることも大事にしているのだ。例えば、カルティエの代表的な”LOVE”コレクションはカルティエが創業された1847年にはなかった。それは時代の流れにあった製品を製作するカルティエの姿を象徴している。</p> <p>また親会社であるリシュモンと同様にカルティエでも社員に対して働きやすい環境を提供している。カルティエはダイバーシティーを重要視しており経営陣の約65%、従業員の約7割が女性だという。一人一人の尊厳を守り魅力を引き出そうとする姿勢はまさに一流であると思う。</p> <p>カルティエ銀座店の店長のお話の中でパーパス経営をブティックでどのように取り入れているのかという話題があった。コロナ禍にエッセンシャルワーカーは必要な職業であることが改めて周知されたがカルティエのような企業はどのような存在意義を持っているのか、この世に存在していいのかという疑問を持たれて考えた末、人間が人間らしく生きられることをサポートし、人と社会に心の豊かさを提供することこそがカルティエの役目だと考えたそう。自分が将来仕事をする上でこの仕事は誰のために、どんな目的をもって行っているのか考えることで仕事への価値を見出すことができるのではないかと感じた。</p>

※調査時の写真



リシュモンジャパン本社にてお話を伺った。



カルティエ銀座店のブティック見学を行った。